## 夢をかなえたチャイルド
My Dreams Come True

ケニア

東アフリカ最大の都市・ナイロビを首都に持ち、近年5～6%の高水準で経済成長している一方、世界最大級のスラム街を抱え、貧富の差が大きな問題となっている。

## 神さまがくれた偶然の「出会い」

「子どものころ、母と兄弟 6 人でケニアのスラム街に住んでいました。母は野菜を売って生活していましたが、家族の食費もままならず、学用品も、靴すらも買えませんでした。でも、僕の人生は変えられました。今度は自分が人の役に立ちたい。今日生きることに必死で夢を見ることも知らない、小さい頃の僕のような子どもたちのために」こう語るのは、2001 年からチャイルド・スポンサーシップの支援を受け、立派に成長したスティーブンさん（24 歳）。支援によって学校に通えるようになり、優秀な成績をおさめるようになったスティーブンさんは、奨学金を受け、現在は京都大学の大学院で農業エンジニアリングを学んでいます。

実は日本で偶然の「出会い」がありました。昨年末、凍える寒さの中でホームレスの方の炊き出しボランティアに参加していた時、ボランティアとして同じ場所にいたのが現在タンザニアのチャイルド・スポンサーをしている筒井優子さんでした。

## 初めて支援をしている実感

「正直、チャイルドに会ったこともないですし、自分の支援が役に立っている実感はあまりなかったんです。それが、支援によってチャイルドがこんな風に成長するんだって知って感激して･･･」と喜びの声を届けてくだった優子さん。

元チャイルドのスティーブンさんと
チャイルド・スポンサーの筒井優子さん

「何より感動したのはスティーブンさんの人柄が素晴らしいこと。彼は、深夜のアルバイトをして、そのお金でケニアの子どもたちを支援していると聞いて、誰かに助けられた経験があると、自分も誰かを助けたいと思うようになるんだなって。こうして、温かい思いは循環するんですね」

京都大学前で友人たちと

チャイルド・スポンサーシップの支援は確実に届き、子どもたちの人生に希望と変革をもたらしています。アフリカの支援地域でスポンサーを待っているチャイルドは 9040 人（5/14 現在）。チャイルド・スポンサーシップのお申込み、またチャイルドもう一人分のご支援いただける方は、お電話ください。

**0120-465-009**

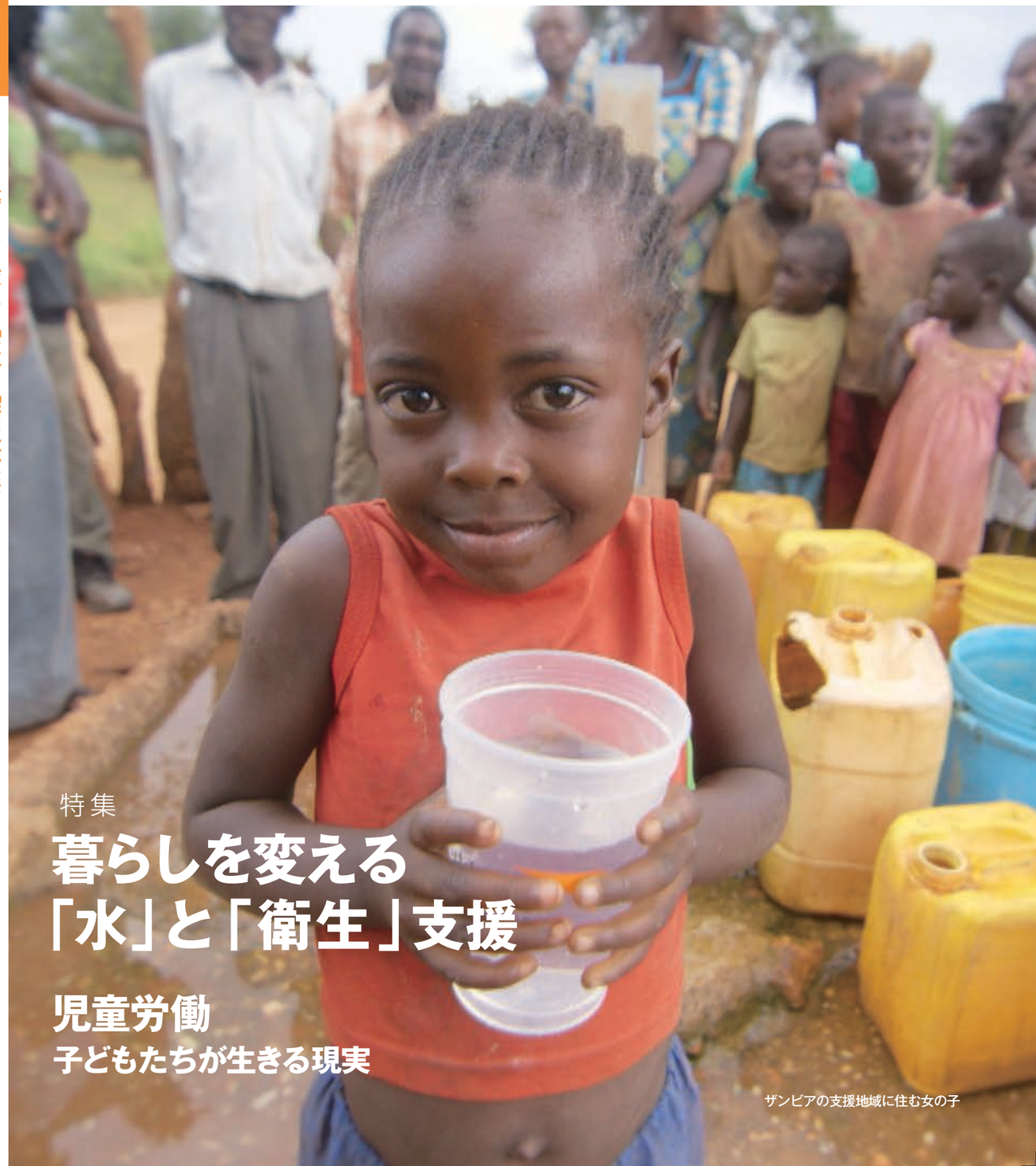

World Vision News No. 182
2015年 6月発行　ワールド・ビジョン ニュース
特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン
〒164-0012 東京都中野区本町 1-32-2ハーモニータワー 3F
TEL 03-5334-5351(平日9:30～17 :00) FAX 03-5334-5359
dservice@worldvision.or.jp
www.worldvision.jp




# World Vision News


No. 182 2015年 6月 ワールド・ビジョン ニュース


World Vision
この子を救う。未来を救う。



特集

# 暮らしを変える「水」と「衛生」支援

## 児童労働
### 子どもたちが生きる現実

ザンビアの支援地域に住む女の子

特　集

# 暮らしを変える「水」と「衛生」支援

## 「水」と「衛生」支援が生み出す、健康と時間

地面から水が噴き上がり、「水が出た！」と喜ぶザンビアのバイオレットちゃん。歓喜の写真は、水の貴重さを物語っています。安全な水が手に入らないため、また、手洗いやトイレ使用の習慣が定着していないために下痢が原因で命を落とす子どもたち。水汲みに何時間もかかるため、学校へ通えない子どもたち。安全な水と衛生的な環境が実現すれば、子どもたちの健康が守られ、学校へ通うための時間も確保できるようになります。「水」と「衛生」の支援で重要なのは、地域の人にその大切さを理解してもらい、参加を得ながら進めること。完成した井戸やトイレが、住民自身によって大切に使い続けられるためにも不可欠です。ワールド・ビジョンが実践している、ハード、ソフト両面の「水」「衛生」支援についてご報告します。





Violet's story

## 私の村に「水」が来た日

### ザンビア

ザンビア：アフリカの南部に位置。近年は、経済成長が見られるものの、交通網や電力など、経済インフラは脆弱で、教育や医療、給水衛生施設などの社会インフラも未発達であることから、依然として貧困率は地方農村部を中心に高い水準にある。

### バイオレットの日課

「私の名前はバイオレット。10 歳でザンビアに住んでいます。私は日が昇る前に家を出て、3.5 キロ先にある井戸に水を汲みに行きます。村に井戸がないので何度も往復します。そのため学校には行けません。長く歩くので、学校のことを夢見るようにしています。そうすると時間が過ぎるのが早い気がするからです。夢はいつか医者になること」

### これから学校に行けるんだよ

「昨年、ワールド・ビジョンが村に来てくれました。初めて見る大きな大きなトラックも一緒に来ました。ゴリゴリゴリっと大きな音がして、土の中から水が嘘のようにどんどん出てきて驚いたわ！ワールド・ビジョンのスタッフは、『もう水の心配はないんだよ。これからは学校に行けるんだよ』と言ってくれました」

### 「水」がもたらすもの

- 健やかな命
- 教育水準の向上
- 女性の社会進出
- 経済発展
- 農業の改善

### 「水」が「希望」となった

「村に井戸ができてから、井戸が近くにあるので水汲みが簡単になりました。水汲みにかけていた時間がなくなり、その時間で私は学校に行けるようになりました」

「水」はバイオレットちゃんに「時間」を与えました。ある人には「健康」を与えて、ある人には仕事を与えました。そして「水」はこの村の「希望」になりました。

### ワールド・ビジョンの「水」と「衛生」支援実績

世界には今もなお、安全な水にアクセスできない人が 7 億 8000 万人、トイレが使えない状況にいる人が 25 億人います。ワールド・ビジョンはこの状況を改善するため、皆さまからの募金を活かし、世界中で地域の人々とともに成果が長続きする支援を行っています。

約 100 万人の子どもたちに、手洗いなどの衛生啓発活動を実施。（2011～2013年）

約 235 万人が安全な水にアクセスできるようになりました。（2011～2013年）

子どもたちが利用できる 22 万 4051 のトイレを建設。（2011～2013年）

この地域に合った水施設、深井戸を掘るスタッフたち

特集

Water

# 成果が続く水支援

### 「水」支援の課題

世界では7億8000万人が安全な水を継続的に利用できない状態にあります。水源が近くにない、湧水を家畜と共有しているため水が汚染されるなどの問題があるためです。井戸などの設備を作ればすべての問題が解決するわけではありません。コミュニティが施設を運用、修繕するためのノウハウを同時に育てることが「水」支援の課題です。

### 住民の力で課題を克服

実りのある支援のためには、地域の特性や人々の生活習慣に配慮した設備の設置が必要です。事業の実施にあたり、まず住民との信頼関係の構築、そして、「水」をめぐる問題の解決に向けた住民との協議を重ねます。時が経っても確実に設備を利用し続けるためには、住民の主体的な関わりが不可欠です。

### 水管理委員会の活躍が成功の鍵

住民の中から「水管理委員会」を選出し、人々から小額の料金を徴収し、設備の修繕費として利用する方法が多くの支援地域で定着しつつあります。2014年に行われた調査によると、この方法で管理されている井戸は、そうでない井戸に比べ活用され続ける割合が4倍高いという結果が出ています。住民の参加を大切にする支援が、施設活用の持続性を高めています。

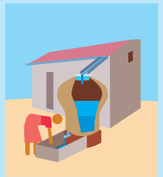
### 地域の特性に合わせた水供給施設

**ロープポンプ**

身近にある資材を利用して簡単な技術で作ることができるため、低コストかつ修繕も容易。自転車の車輪の再利用など廃材を用いたロープポンプも見られる。

**自然流下による配水システム**

高台にある水源からパイプで各給水所に重力で水を流下させる仕組み。取水口にはキオスクを設け、料金を徴収し、パイプの維持管理を行う。



**雨水貯留タンク**

学校や保健施設などの公共施設、また住居の屋根の雨どいから集めた雨水をろ過してタンクに貯水し、給水源とする。

学校で手洗いについて学び実践する子どもたち

支援によって建てられたトイレの前で手洗いをする女の子

特集

Sanitation/Hygiene

# トイレと手洗いで救われる命

### 「衛生」について知る大切さ

住んでいる地域にトイレがない、またはトイレを使用する習慣や手洗いの習慣がないため、毎日約1400人の子どもが命を落としています。安全な水を届けるだけでなく、「衛生」についての正しい知識を人々に伝えることが重要です。ワールド・ビジョンでは、コミュニティにトイレの設置を促し、衛生啓発活動に取り組んでいます。正しい知識を普及させることで、子どもたちの命を守っています。

### トイレを使うことが当たり前になるために

支援地域の中には、もともとトイレを使う習慣がない地域もあります。野外排泄は衛生面での問題や、人気のない場所での危険性もあり、これをなくしていくことが急務です。支援活動では、意識や行動を変えるための取り組みや公共施設へのトイレの設置、自宅にトイレを作るための資材を提供しています。

### 歌や踊りで「衛生」の大切さを定着

小さい頃からの手洗いの習慣は、子どもたちが健康に過ごすために必要です。支援地域の小学校では衛生に関わる啓発活動を盛んに行っています。まず、子どもを教える教師が、地域の保健員などを通じて学び、次いで、子どもたちは授業や保健クラブなどの活動を通じて衛生の大切さを学びます。さらに、慣れ親しんでいる寸劇や歌、踊りを通じて、清潔を保つこと、トイレを適切に利用することなど、学んだことの大切さを定着させます。

### トイレ利用の理解を深めるための活動［東ティモール］

**1 トイレの大切さを伝える**

コミュニティの人々を集め、トイレを利用する大切さや野外排泄がもたらす病気などの弊害について話します。

**2 自主的なトイレの利用**

人々が理解しやすいように図などを使い理解を促し、住民がトイレを作ること、利用することに同意する意志表明へ導きます。

**3 いよいよトイレの設置**

現地で身近にある資材を用いて住民が自主的にトイレを設置します。その後の利用状況を確認し、フォローを続けます。

東ティモールに駐在した三浦スタッフの活動は、ホームページのブログでご覧いただけます。

採掘場で泥まみれになりながらわずかな金を探すヨハネ君（モザンビーク）

# 児童労働
## 子どもたちが生きる現実

**お風呂掃除やファストフード店でのアルバイト。日本でも、子どもが働く光景はよく目にします。しかし世界には、生きるために劣悪な環境で働かなくてはならない子どもたちが大勢います。そんな子どもたちを減らすために制定されたのが、児童労働世界反対デー。６月12日のその日を前に、厳しい世界に生きる子どもたちの現実をお伝えします。**

### 児童労働とは？

児童労働は大きく二種類に分けられます。一つは、就業最低年齢（原則15歳）未満の子どもが大人のように働く労働で、例えば、他人の家で一日中行う家事労働。もう一つは、18歳未満の子どもによる健康・安全・道徳を損なう恐れのある労働で、危険な作業や売春、兵士等、「最悪の形態の児童労働」と言われます。教育を受けられない、自由に遊ぶ時間がない等、子どもが健全に育つことが難しいという点で、日本で見られるアルバイトやお手伝いとは区別されます。

山から土の塊を切り出し、埃が舞う工場で一日中レンガを作るサライ君（左）。
「最悪の形態の児童労働」の一例（カンボジア）

### 児童労働の現状
### ９人に1人の子どもが犠牲に

児童労働を強いられる子どもの数は、年間１億6795万人。これは、世界の子どもの約9人に 1人という割合です。さらに、この半数以上は、先述の「最悪の形態の児童労働」に就いており、子どもの人権が脅かされています。児童労働の主な原因は貧困。教育の機会を失った子どもは、大人になっても良い仕事を得にくいため、家族を養えず、その子どもも働かなければならないという悪循環に陥っています。この悪循環から、9人に 1人の子どもが未来を奪われているのです。

出典：「Marking progress against child labour Global estimates and trends 2000-2012」ILO

### 私たちの身近にある児童労働

児童労働は、私たちの身近なところにも存在します。例えば、コーヒー。安い価格の背景には、広大な農園で一日中コーヒーの実を収穫する子どもがいるかもしれません。大人よりも賃金が安い子どもは、コーヒーの他にも、チョコレートの原料であるカカオの収穫、Tシャツになる綿花の摘み取り、サッカーボールの縫製、指輪や携帯電話の部品になる金属の採掘等に従事しています。

### 児童労働をなくすために

この問題に取り組むため、国際労働機関（ILO）は国際条約で児童労働を禁止しており、国連も「子どもの権利条約」で子どもの基本的人権を認めています。多くの国はこれらの条約に賛同し、国内法を整備。また近年では、製品の製造過程で児童労働が行われていないか、厳しくチェックする企業も現れています。
ワールド・ビジョンは、児童労働の主な原因である貧困を断ち切るため、チャイルド・スポンサーシップを通じて、地域全体の環境改善に取り組んできました。さらに、2014年のG20サミットに際して、G20諸国が児童労働問題に協力して取り組むことを求めた政策提言書を発表しています。これからも、支援活動とアドボカシーの両輪で、この問題に取り組んでいきます。

### ヨハネ君の現実

モザンビークに住むヨハネ君は、お母さんと 3人の兄弟の ５人家族。お父さんがいないため、長男のヨハネ君が働きます。毎朝６時に起きて、採掘場で金を探します。空腹のまま、８時間泥を掘り続けましたが、売れる量には届きません。約2日間で、ようやく２米ドルの収入になります。この地域には、ヨハネ君のような子どもたちが沢山います。「僕には食べ物も休みもない。働き続けるしかないんだ」

ヨハネ君（左から２人目）とその家族

ルワンダ訪問ツアーレポート

# チャイルドに会って支援の現場を見てきました

17名のチャイルド・スポンサーと、ルワンダの２つの支援地域を訪問しました。
チャイルドやコミュニティの人々と交流、支援活動の視察の様子をご紹介します。

一生の思い出ができました！

ルワンダ訪問ツアー集合写真

**SCHEDULE** スケジュール

| | |
|---|---|
| 3/21 | 出発 |
| 3/23 ～ 24 | キラムルジ ADP を訪問<br>学校、平和の木プロジェクト、<br>家建設レンガ作り・植樹体験、酪農組合 |
| 3/25 ～ 26 | グウィザ ADP を訪問<br>栄養改善プロジェクト、平和構築（ジェノサイド記念館） |
| 3/27 ～ 28 | 観光、ボランティア活動参加 |
| 3/29 | 帰国 |

## 教育支援　学校を視察しました

この学校では以前一つの机に生徒が 6 人座っていました。支援によって現在 4 人で座れるようになり、必要な学用品も提供することができました。また幼稚園クラスも増設され、教育の質も向上しました。学校では勉強だけでなく、歌などを通してわかりやすく水衛生や手洗いなどの生活習慣に関することも教えています。

私たちの支援によって、子どもたちが学校に行けるようになってとても嬉しい。

## 生計向上　酪農組合の牛舎

貧しかったコミュニティを対象に生計向上の支援を行っています。コミュニティの酪農組合に牛を提供し、牛舎を建てました。これによって人々は安定した収入が得られるようになりました。牛は、生計向上だけでなく、子どもたちがそのミルクを飲むことで栄養改善につながり、糞は堆肥として野菜の栽培に使われています。

自分の支援で提供された牛に餌をあげました。牛の有難さを実感しました。

## 平和構築　「平和の木プロジェクト」

1994 年のジェノサイドの被害者と加害者が互いの家に木を植え、生涯、その木の世話をします。カウンセリングなどのプログラムもあり、「平和の木プロジェクト」を通して被害者の傷が癒され、加害者も罪の苦悩から解放されます。和解と一致によってコミュニティの健やかな成長と将来を担う子どもたちに希望を与えています。

「次世代のための和解」という言葉が心に響きました。

インド訪問ツアー
参加者募集中！



広がる支援の輪

## チャイルドに会えてうれしかった！

日頃、手紙や成長報告書の写真でしか会えなかったチャイルドに実際会うことができました。一緒に遊んだり、ご飯を食べたり、一生の思い出になる時間を過ごすことができました。

チャイルドとその家族、同じコミュニティに住む人々が歌やダンスで迎えてくれました

「スポンサーという立場で支援地域を見てみよう。支援しているチャイルドに会ってみたい」と。そこに満足感を得たい姑息な上から目線での参加意識が打ち砕かれました。チャイルドや現地の人々は、私たち以上に愛に溢れていました。彼らの感謝の笑顔、歓迎ぶりに大きな感動を受けました。幸せを受け取ったのはむしろ私たちのほうでした。

キラキラした目と素敵な笑顔が素晴らしい

チャイルドに会うことができて嬉しい

プレゼントしたお洋服を着てくれました

感謝され、私も思いを伝えることができた

歓迎の踊りがとても上手でした

## 皆さまの支援によって支援活動が完了を迎えます

### チャイルド・スポンサーシップの２つの地域の支援が完了します

タンザニアの支援地域に住む子どもたち

### タンザニア

ンゲレンゲレ拡大地域開発プログラム
1996年～2015年9月30日

**課題**

この地域では、基本的な保健医療サービスや初等教育を十分に受けることのできない子どもたちが多くいました。また、安全な水へのアクセスができないことや農業生産性の低さも課題となっていました。

**成果**

診療所の建設、感染症予防の啓発活動、予防接種の巡回サービスなどを実施し、5 歳未満児の約 82%が予防接種を受け、約 94% の家庭が就寝時に蚊帳を使用できるようになりました。野外や粗末な造りの校舎で授業を受けていた子どもたちのために、70 以上の教室を建設しました。また、90 以上の井戸の建設し、水が原因でかかる病気から多くの幼い子どもを救いました。農業分野では、改良型種子や近代農法の導入により、主食のトウモロコシの生産量が増加しています。

子どもの日を祝って地域を行進する子どもたち

### インドネシア

ススカン地域開発プログラム
1996年～2015年9月30日

**課題**

この地域には、農村部から仕事を求めて都市部に移住したものの、収入が安定せず貧困に苦しむ人々が多くいました。子どもの栄養不良、若者の薬物使用、HIV/ エイズの感染拡大も問題となっていました。

**成果**

19 年間にわたり、教育、保健、収入向上の分野で支援活動を続けてきました。現在では 8 つの就学前教育センターと 14 の幼稚園が運営され、これまでに計 5257 人が卒業しました。また、地域の保健スタッフへのトレーニングや母親向けの啓発活動などにより、5 歳以下の栄養不良の子どもの割合が減少しました。収入向上のトレーニングを受けて身に付けた技術で、小規模ビジネスを行い、その収入によって子どもの学費等に充てることのできる世帯も増えています。

**長きにわたる継続的なご支援をありがとうございました**

# 難民となり学校に通えない子どもたちに教育を届けたい

難民の保護と援助に対する世界的な関心を高めるために、6 月 20 日は「世界難民の日」と制定されています。世界では、紛争などが原因で 5000 万人以上の人々が避難を余儀なくされています。そのうち 50% が 18 歳以下の子どもたちです。故郷から逃れた子どもたちは、現在の暮らしだけでなく、未来をも奪われつつあります。（データ出典 2013 年 UNHCR）

シリアでは、2011年3 月から始まった激しい内戦により、約 390 万人の人々が難民となって、隣国のヨルダン、レバノンなどに逃れました。その約半数が 18 歳以下で、そのうち約 21%は小学校に通う年齢の子どもたちです。子どもたちは、シリアで愛する家族や友人を亡くし、親しんだ家や学校を破壊されるなど、残虐な光景を目の当たりにしたため、心にも傷を抱えています。

南スーダンの難民の家族。子どもたちは学校に通うことができません

また、長年の内戦の末に 2011 年 7月に独立した南スーダンでは、平和の到来も束の間、2013 年12 月に再び内戦が勃発しました。2006 年から南スーダン（当時の南部スーダン）の子どもたちのために、ワールド・ビジョン・ジャパン（WVJ）は支援活動を行ってきましたが、人々は南スーダンを離れることを強いられ、周辺国に逃れています。WVJが支援を行っているエチオピアの難民キャンプには、教育を受けられない子どもたちが約2万4000人います。

「将来の夢はお医者さんとなること」と話すガザルちゃん（写真右、10 歳）。
避難生活で学校に通えない今、未来に希望をつなげることができません

## 子どもたちの明るい未来のために

WVJ は、心身の成長や教育のために大切な時期の子どもたちのために、ストレスを和らげるためのレクリエーション活動や補習授業などの場を提供しています。文房具セットの支給なども行ない、子どもたちの未来のための教育支援を行っています。
WVJ では、未来を築く子どもたちに教育の機会を届けるために、夏期募金の協力を呼びかけています。

ワールド・ビジョン　夏期募金

## 夏休み「WVサマースクール 2015」を開校します！

参加者募集！

「日本の子どもたちに世界の現状を知ってほしい」という願いを込めて夏休みに開催しているサマースクール。昨年、ご好評いただいた「ルワンダに住むエリックくん」の大きな写真紙芝居や、「みんなで作ろう！世界の子どもカルタ」を今年も行います。体験を通して学びを深める楽しい一日です。

日　時：8月5日（水）
10:30～15:30
対　象：小学3～6年生
会　場：ハーモニーホール
定　員：45名
参加費：無料

アフリカで使っている生活道具で疑似体験

「世界の子どもカルタ」大会

詳細・申込：ホームページをご覧ください

ワールド・ビジョン　サマースクール 2015



## INFORMATION

### WVカフェに参加してみませんか？

3月に開催したルワンダ支援地訪問ツアーの様子

チャイルド・スポンサー同士が交流できるイベント「WV カフェ」を全国各地で開催しています。今回は北海道で、アフリカ、ルワンダの活動状況や 3月に開催した支援地訪問ツアーの様子を動画とともにご紹介します！また東京では、「7月 9日南スーダン独立記念日」を記念し、駐在スタッフによる難民支援事業の報告イベントを行います。参加ご希望の方は事前にホームページ、E メール、またはお電話にてお申込みください。（締切は開催日の 3 日前です）

2015年　6 ～ 7月 開催

**札幌**
日時：6月19日（金）18:30～20:30
会場：札幌国際ビル 8階 A会議室
札幌市中央区北4条西4-1
TEL :011-241-9020

**函館**
日時：6月20日（土）14:00～16:30
会場：函館北洋ビル9階 会議室
函館市若松町15-7
TEL :0138-26-7001

**東京**
日時：7月9日（木）19:00～20:30
会場：ワールド・ビジョン・ジャパン事務所
中野区本町1-32-2
ハーモニータワー 3F
TEL:03-5334-5351

イベント情報は随時ホームページ、E メールでご案内いたします。

### 事務局からのお知らせとお願い

**ホームページがリニューアルしました！**

「知りたい情報を見つけやすく」とパソコンでもスマートフォンでも読みやすさが改善されるよう心がけました。また、アカウントを作成すると、チャイルドの写真や情報が見られたり、住所変更などのお手続き、イベント申込みが簡単にできるオンラインサービス「マイ ワールド・ビジョン」もさらに充実しました。ぜひ訪問してください。

ワールド・ビジョン

**コンゴ民主共和国のチャイルドへのお手紙の重さ制限について**

コンゴは郵便事情が悪く、日本から確実にお手紙を届けるため、高額な郵送手段を利用していました。そのため、コンゴのチャイルドへのお手紙は 25g 以内でお願いしておりましたが、郵送手段の変更に伴い、他国と同様に、定形封筒 50g まで可能となりました。

**電話受付時間変更のお知らせ**

7月 6日（月）より、お電話による受付時間が 9:30 ～ 17:00（平日）に変更となります。なお、ホームページからのお問い合わせや各種お申込みは引き続き 24 時間受付けておりますので併せてご利用ください。

**事務局休業のお知らせ**

7月2日（木）、3日（金）、10月1日（木）は職員研修のため、事務局のお問い合わせ対応をお休みさせていただきます。なお、メールやホームページからのお問い合わせ等には 7月6日、10月2日以降に順次回答させていただきます。ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

コンタクトセンター
TEL　:03-5334-5351（平日9:30～17:00）
Eメール :dservice@worldvision.or.jp

## 世界に思いをはせて VOL.2　事務局長　片山信彦

ルワンダの支援地域にて
（撮影 /Kosuke Mae）

ある調査によれば、2030 年までに世界の貧困層の多くは政治的・経済的に不安定な国（脆弱国）と都市部とに集中すると予測されています。現在は農村部に貧困層が多く、都市と農村の格差の問題が指摘されていますが、この調査結果によると、貧困層が都市部に移り、都市のスラム化が引き起こされるということです。また、内戦や紛争が絶えず、貧困層や社会的な弱者への働きかけができない国が多くなるという予測もあります。2030 年はすぐに来ます。貧困、差別、格差の問題、紛争や環境問題など、世界には解決しなくてはならない課題が山積で、このままだと暗い未来を想像してしまいそうです。しかし、今年は国連で持続可能な開発目標（SDGｓ）を新しく決める年です。私たちは諦めずに希望をもって、自分の意思と行動を示すことができます。自由で平等な世界の実現を目指して、私たち一人ひとりが前向きにできることを考え、取り組んで行くことが大切だと改めて思います。